

総合戦略 効果検証シート

資料1

基本目標 (Plan)	1 はつかいちの「産業」はニュースにあふれている！！！ ～そこ！に着目するはつかいち～						
KGI	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
市内総生産額	3, 539億円 (H29)	3, 766億円 (R1)	3, 667億円 (R2)	3, 721億円 (R3)	3, 836億円 (R4)	4, 000億円	○

【KGI・KPIの進捗状況凡例】
◎:目標値達成
○:現状値(R1)から改善
△:現状値(R1)と同数又は後退
【施策の評価凡例】
KPIの平均点が
4点以上:達成 2点以上4点未満:やや達成 2点未満:要改善
(KPIの進捗状況 ◎:5点 ○:3点 △:1点)

施策体系		施策達成度							
施策1	コロナ禍からの復興と産業活性化	要改善 (1点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	創業支援等事業計画を活用した市内創業者数	101人	69人	97人	69人	95人	110人	△	
施策2	お宝ザクザクはつかいち	やや達成 (3.7点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	①JA直営の売り上げ高	1億9, 000万円	2億9, 000万円	3億1, 000万円	3億円	3億2, 000万円	2億2, 000万円 (R3)	◎	
	②認定農業者数・認定新規農業者数	32者	32者	34者	35者	42者	47者	○	
	③認定農業者の内スマート農業に取り組む者	-	3者	3者	2者	2者	10者	○	
	④漁業生産額	30億円 (H28)	30億円 (R2)	30億円 (R3)	30億円 (R4)	33億円 (R5)	30億円	◎	
	⑤観光消費額	287億円	127億円	220億円	345億円	367億円	310億円	◎	
	⑥観光客一人当たりの消費額(観光消費額／観光客数)	3, 627円	3, 869円	4, 094円	4, 300円	4, 412円	4, 000円	◎	
	⑦事業継続強化計画の認定を受けた市内事業者数(累計)	6社	58社	64社	86社	100社	50社	◎	
	⑧産業経済団体、産業支援機関等を活用したビジネスマッチングへの参加事業者数	87社	43社	56社	71社	81社	100社	△	
	⑨地元の食材を提供するホテル旅館及び飲食店数	-	-	-	-	13件	10件	◎	
	⑩市内の農水産物を購入している市民の割合	31.8%	31.2%	31.9%	31.4%	33.2%	37.0%	○	
	⑪産業支援機関等を活用した事業承継成立件数	0件	1件	2件	0件	0件	5件	△	
	⑫産業支援機関等が開催するビジネスフェアへの参加企業数	17社	3社	7社	11社	0件	35社		
施策3	新たな「人・モノ・コト」を開拓する	達成 (5点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	法人市民税の申告件数	2, 615件	2, 572件	2, 730件	2, 762件	2, 804件	2, 615件	◎	

総合分析 (Check)	<p>KGIの実績値(R4)は3,836億円であり、現状値(H29)3,539億円から297億円増加、直近で最も多い市内総生産額であった実績値(R1)からも70億円増加している。目標値までは達していないが、現状値から向上しているため、進捗状況は「○:現状値(R1)から改善」である。</p> <p>施策1:昨年度実績から「創業支援等事業計画を活用した市内創業者数」は増加したものの、目標は未達成となっている。しかしながら、創業塾やビジネスコンテストへの応募人数がともに過去最高だったことから、市内全体では創業機運が高まっていることが推測され、創業に対する更なる支援が必要だと考える。</p> <p>施策2:全体的に「◎:目標値達成」と「○:現状値から改善」のKPIが多い中、「⑧産業経済団体、産業支援機関等を活用したビジネスマッチングへの参加事業者数」と「⑪産業支援機関等を活用した事業承継成立件数」の指標では「△:現状値と同数又は後退」となっており、この2つのKPIの改善が、施策全体の目標達成への課題である。</p> <p>なお、⑫のKPIにあるビジネスフェアは令和6年度から開催されていないため、実績値の計測が不可となっている。</p> <p>施策3:令和6年度の法人設立・開設件数は98件、解散廃止件数は65件となっている。このことから本市への事業所立地は増加しており、進捗状況も「◎:目標値達成」となっている。</p>
今後の対応 (Action)	<p>施策1:産業経済団体、金融機関、産業支援機関と連携し、それぞれの強みを活かした創業の支援及びコミュニティビジネスの普及と推進を今後の方針とする。</p> <p>その中で、次のような事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創業のステージ(創業希望者、創業準備者、創業間もない人)に応じた支援 ・創業の形として、事業承継による創業を支援機関と連携し推進 ・既存事業者の業態変更や新事業展開など第2創業の支援 ・空き家や商店街の空き店舗の活用等も視野に入れた支援 ・創業補助金の継続 ・廿日市市が創業しやすい街と認識してもらえるようなプランディング 等 <p>施策2:「⑧産業経済団体、産業支援機関等を活用したビジネスマッチングへの参加事業者数」について、今後もビジネスマッチング機会を提供する交流会を実施していく予定であるが、参加者から業種や職種を絞った交流会を求める声や、大人数で全員と交流できなかったことから、少人数限定の交流会を希望する声もあるため、そのようなニーズも反映しながら事業を実施していく。また、情報発信の方法の見直しや支援が必要な事業者へのアプローチ方法を再度検討した上で、引き続き事業承継相談会を実施していく。</p> <p>施策3:令和6年度に交付した「オフィス誘致助成金」は新たな企業誘致につなげるための資金援助であり、引き続き広島県と積極的に連携していくとともに、オフィスに適した物件の情報収集、整理を行っていくなど、更なる申告件数の増加を目指す。</p>

推進会議の意見	
・廿日市市は大きく5つの地域があり、それぞれの地域で意見は違うのではないかと思うが、地域別に評価は出来ているのか。地域別の問題を集めることで、どこに重点を置くべきか見えてくると思うので、ぜひお願ひする	
・基本目標1のKGI「市内総生産額」について、目標には達しておらず、進状況は「○」となっているが、事業を行ったことによってKGIが伸びた施策はどの程度あったのか。それが分かることで今後の対応が見えてくるのではないか。	
・観光客数が増えた要因が、戦略的な施策によって増加しているのか。コロナ禍からの回復のような世界的な動向で伸びたのであれば、施策の効果ではないのではないか。	

総合戦略 効果検証シート

資料1

基本目標 (Plan)	2 住みたくなる！ちょうどいいまち ～そこ！そこ！！のはつかいち～意外と知らない、魅力いっぱいのまち						
KGI	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
人口の社会動態	転入超過 (213人)	転入超過 (174人)	転入超過 (238人)	転入超過 (505人)	転入超過 (126人)	転入超過	◎

【KGI・KPIの進捗状況凡例】
◎:目標値達成
○:現状値(R1)から改善
△:現状値(R1)と同数又は後退
【施策の評価凡例】
KPIの平均点が 4点以上:達成 2点以上4点未満:やや達成 2点未満:要改善 (KPIの進捗状況 ◎:5点 ○:3点 △:1点)

施策体系										
施策達成度										
施策1	ウェルカムはつかいち ～暮らしを楽しむ魅力いっぱいのまち～		やや達成 (2点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	①市の取組を知り、廿日市市に暮らすことに興味・関心がわいた20歳代～40歳代の割合		46.8%	46.0%	46.1%	49.5%	48.5%	60.0%	○	
	②20歳代～40歳代の転入者数		2, 864人	2, 475人	2, 634人	2, 527人	2, 390人	2, 900人	△	
施策2	はつかいち再発見		要改善 (1点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	現在の地域に住み続けたいと思う市民の割合		79.3%	78.0%	79.3%	76.7%	75.5%	80.0%	△	

総合分析 (Check)	<p>KGIの令和6年度実績は転入超過のため、進捗状況は「◎(目標値達成)」であるが、転入超過人数については令和5年度の実績値505人から126人と減少している。</p> <p>施策1:KPI①「市の取組を知り、廿日市市に暮らすことに興味・関心がわいた20歳代～40歳代の割合」については、現状値から向上している。 しかしながら、テレビ番組とのタイアップを通じた廿日市市の魅力を伝える取組に対しては、「非常に良い」「良い」との意見が多かった一方で、①のKPIの実績値が48.5%であり、Instagramなどを含めた市の魅力発信の取組が直接的な効果に結びついておらず、効果的な情報発信が必要だと考える。</p> <p>KPI②については、令和6年度は0～9歳及び30代の転入が多いことから、子育て世代から選ばれていると考える。 一方で、15～19歳、20～24歳の人口が転出超過となっており、これは進学・就職に際して、選択肢が限られるなどの理由によるものと思われることから、企業の存在とその業務内容を知ること、そして若者が働きたいと思える環境を整えることが必要である。</p> <p>施策2のKPI「現在の地域に住み続けたいと思う市民の割合」は低下傾向で、現状値と比べて3.8ポイント減少しており「△:現状値(R1)と同数又は後退」となっている。 市への愛着やシビックプライドの醸成を目的とした、市内の小中学校及び高校における総合的な学習の支援や、市の魅力や情報などを定期的にSNSで配信するなどの取組を行っているものの、KPIの向上に結びついていないことから、効果的な情報発信が必要だと考える。</p> <p>【「現在の地域に住み続けたいと思う市民の割合」地域別】 「住み続けたい」又は「当分は住み続けたい」の割合 ・廿日市地域 81. 9% ・佐伯地域 64. 3% ・吉和地域 72. 0% ・大野地域 78. 4% ・宮島地域 58. 8% 「現在の地域に住み続けたいと思う市民の割合」を地域別に見ると、沿岸部の廿日市地域、大野地域においては高く、中山間地域である佐伯地域、吉和地域及び島嶼部の宮島地域では低い傾向となっている。</p>
今後の対応 (Action)	<p>施策1:継続してメディアプロモーションを行うことで興味・関心を持ってもらい、関係人口、交流人口の拡大につながるよう市の魅力を発信し、その中でも、若い世代に対してはInstagramによる情報発信により魅力を届ける。 令和6年度に実施した、東京での移住フェアについて、フェア参加者が移住に繋がったかの追跡調査は難しいが、市の魅力を対面できめ細やかに伝えることで移住先として選ばれる候補となるため、引き続き継続して参加する。</p> <p>移住定住については、公式LINEアカウントやホームページなどのツールを利用した情報発信の強化を図り、空き家の掘り起こしや、移住・定住希望者のニーズに応じた情報提供に取り組んでいく。</p> <p>施策2:多様な広報媒体を使用して、行政情報を分かりやすく市民に届けることで、市民と良好な関係を築き、信頼を獲得することにより、本市で暮らすことの安心感、愛着の醸成につなげる。また、本市の情報発信の可能性、幅を広げるため、市民との共創による情報発信の取り組みとして「はつレボ隊」を結成する。(令和7年7月結成)。本市の魅力を市民目線でInstagramを通して発信することで共感が生まれ、本市に対する愛着が深まると考える。</p> <p>SNSについては、それぞれに特性があるため、届けたいターゲットを分析したうえで、発信手段を選択し、効果的に発信する必要がある。 また、佐伯地域、吉和地域においては、LINE公式アカウント「やまとめぐり」を活用し、中山間地域の魅力やイベントに関する情報発信を行うなど、引き続き取組を進めていく。</p>

推進会議の意見

<ul style="list-style-type: none"> 廿日市市は、ちょうどいいまちではある。すごく良いまちであるということを市民から発信されることはすごく良いことだと思う。口コミやアンバサダー企画のような取組は、ぜひ廿日市市でやるべき。 はつレボ隊の結成について、今後非常に期待している。一方でメンバーについては発信内容の固定化を防ぐなどから、常に更新が必要と思う。また、シビックプライドの醸成の取組についても、講師の派遣などは、傾向の偏りを防ぐために、人の更新が必要である。 「移住フェアの参加者が移住につながったかの追跡調査は難しい」とあるが、デジタル活用の観点から、QRコード等を活用したアンケート調査で情報収集を進めることにより、ある程度測定出来るのではないか。また、先ほどもあった、地域別の結果について、「現在の地域に住み続けたいと思う市民の割合」は地域別の数値が出ているが、その他の指標についても、地域別の結果が分かれれば、より具体的な施策の検討が出来るのではないか。 「現在の地域に住み続けたいと思う市民の割合」について、佐伯地域、吉和地域、宮島地域の割合が低くなっているが、その中で廿日市市他の地域に住みたいと思われている方は一定数いるのではないか。廿日市内の他の地域に住み続けたいと思われることは、良いことだと思う。オールはつかいちで考えると、中山間地域など不便な地域から便利な沿岸部に移動することは自然な流れではないか。 市から発信するSNSやYouTubeについて、外国人をサポートするという観点で、音声を入れてもらいたい。
--

総合戦略 効果検証シート

資料1

基本目標 (Plan)	3 子育て世代に選ばれ続ける「そこ！」が大事 子どもたち、みんな“はつかいちの子” ～みんなで子育て～						
KGI	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
合計特殊出生率	1.41 (H30年度確定値)	1.33 (R2年度確定値)	1.43 (R3年度確定値)	1.37 (R4年度確定値)	1.36 (R5年度確定値)	1.44	△
0~14歳の社会動態	転入超過 (203人)	転入超過 (255人)	転入超過 (210人)	転入超過 (243人)	転入超過 (143人)	転入超過	◎
将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合	(小学校)85.9% (中学校)76.4%	(小学校)80.6% (中学校)69.7%	(小学校)81.8% (中学校)71.2%	(小学校)80.8% (中学校)68.3%	(小学校)82.8% (中学校)65.5%	(小学校)89.0% (中学校)78.0%	(小学校)△ (中学校)△

【KGI・KPIの進捗状況凡例】

◎:目標値達成
○:現状値(R1)から改善
△:現状値(R1)と同数又は後退

【施策の評価凡例】

KPIの平均点が
4点以上:達成 2点以上4点未満:やや達成 2点未満:要改善
(KPIの進捗状況 ◎:5点 ○:3点 △:1点)

施策体系										
施策達成度										
施策1	子育てが楽しくなるまちづくり		やや達成 (3点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	①この地域で子育てをしていきたい人の割合			98.1%	98.4%	97.6%	98.6%	98.2%	99.0%	○
	②ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある保護者の割合			81.6%	84.1%	81.2%	81.1%	82.7%	83.0%	○
施策2	まち全体で子どもを育てる		やや達成 (3.3点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	①コミュニティ・スクールの導入校数			0校	3校	27校	27校	27校	27校	◎
	②ICTを活用した授業を実施している教師の割合			(小学校)72.0% (中学校)67.4%	(小学校)66.1% (中学校)67.0%	(小学校)77.2% (中学校)74.3%	(小学校)81.0% (中学校)79.1%	(小学校)88.5% (中学校)86.3%	(小学校)100% (中学校)100%	(小学校)○ (中学校)○
	③外国人と積極的にコミュニケーションを図りたいと思う児童・生徒の割合			(小学校)81.9% (中学校)49.9%	(小学校)68.8% (中学校)50.3%	(小学校)68.5% (中学校)53.7%	(小学校)68.0% (中学校)51.4%	—	(小学校)85.0% (中学校)60.0%	
	④朝食を毎日食べる児童・生徒の割合			(小学校)96.0% (中学校)94.3%	(小学校)95.4% (中学校)92.2%	(小学校)96.1% (中学校)93.7%	(小学校)95.6% (中学校)93.0%	(小学校)94.3% (中学校)91.4%	(小学校)100% (中学校)100%	(小学校)△ (中学校)△
	⑤自分の良さは周りから認められていると回答した児童・生徒の割合			(小学校)74.6% (中学校)72.2%	(小学校)76.3% (中学校)70.7%	(小学校)79.6% (中学校)74.5%	(小学校)77.0% (中学校)73.5%	(小学校)79.4% (中学校)78.6%	(小学校)75.0% (中学校)75.0%	(小学校)○ (中学校)○
総合分析 (Check)	<p>KGIの中で「0~14歳の社会動態」は「○(目標値達成)」となっており、子育て世代から選ばれるまちづくりに一定の成果が出ていている。一方で、「合計特殊出生率」は現状値(R1)から比べて低下となっており、それぞれの経済状況や将来に対する不安、多様な価値観など様々な要因がある中で、目標値の達成には至っていない。また、「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」も小学校、中学校ともに「△(現状値から後退)」となっており、児童・生徒は多様な情報に触れ、現実を捉えながら自分の将来について考えている現状があり、多様な選択肢の中から将来の夢や目標を決めるに慎重になっている可能性がある。</p> <p>施策1:2つのKPIのどちらも「○:現状値(R1)から改善」となっている。子育ての支援体制、環境の整備・相談支援体制の充実・安心して出産・子育てできる環境整備などの基本事業の推進の結果、目標値までもう一歩の値となっており、継続した取組が必要となる。</p> <p>施策2:進捗状況が「○:目標値達成」又は「○:現状値(R1)から改善」のKPIが多い中、「朝食を毎日食べる児童・生徒の割合」については、小学校・中学校共に現状値から後退している。朝食の欠食については家庭環境による影響が大きいことが考えられ、食に関する指導及びイベントの開催やSNSの活用等により、情報発信や啓発を行っているが目標値の達成には至っていない。</p> <p>なお、「③外国人と積極的にコミュニケーションを図りたいと思う児童・生徒の割合」については、令和6年度より県のアンケートの設問が「外国人と積極的にコミュニケーションを図ることは大切だと思いますか」に変更になっており、ニュアンスの違いがあることや、数値が大幅に上昇していることなどから実績値は「—」としている。</p>									
今後の対応 (Action)	<p>施策1:引き続き「(仮称)廿日市市こども計画」の策定及び推進体制の構築による年代に応じた切れ目のないこども施策の推進などの方針のもと、これまで行ってきた取組の維持、継続、拡充とともに、あかちゃんオムツプレゼント事業(令和7年10月開始)など、新たな取組を推進する。</p> <p>施策2:「④朝食を毎日食べる児童・生徒の割合」のKPIを向上させるため、学校、学校給食施設及び関係機関が相互に連携した食育普及・啓発活動を充実させるとともに、保護者への啓発を進める。また、朝食を欠食する原因について分析し、児童生徒への指導と併せ、保護者に向けた効果的なアプローチの方法を検討する。</p> <p>また、既に目標を達成しているKPI「⑤自分の良さは周りから認められていると回答した児童・生徒の割合」について、学校・学級が児童生徒にとってより安心して過ごせる場所となるよう改善していくとともに、授業場面においても協働的な学びの基礎となる学級経営の視点を取り入れながら改善を図る必要があり、その他のKPIも含めて更なる数値の向上を目指す。</p>									

推進会議の意見

・子育てについて、廿日市市には市民全体で子育てをしているという施策と、面白い施策を期待している。特徴を前面に出して、メディアに取り上げられるような取組や、市民巻き込み型の取組など、口コミされるような廿日市市らしい取組を今後の対応にも出して欲しい。あたりまえのことが、楽しそうに思えるようにしていただきたい。

・「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたいと思う児童・生徒の割合」は、外国人ではない児童生徒の視点での指標となっており、外国人の子どもたちがコミュニケーションを図りたいかという指標にはなっていない。外国人の子どもたちが、何に困っていて、どうすれば過ごしやすいか、ということを考える必要があるのではないか。

・「朝食を毎日食べる児童・生徒の割合」について、目標値が100%になっており、高すぎるのではないかと感じる。例えば、目標値には達していないが、県内の平均値や他市町と比べたり、全国の平均値と比べると廿日市市は良い数値であることを示すなど、単純に過去と比べるだけではなく、違う観点から見ることも大事ではないか。

・「将来の夢や自分の目標を持っている児童・生徒の割合」については、今の時代、単純な夢、目標を持ちにくい中、若干下がっており、自己肯定感が下がっている結果がある中で、廿日市市は住んでいる地域も、自分の良さも周りから認められているというところが、今後の転入やシビックプライドのつながると思う。非常に明るい結果が出ていると感じた。

総合戦略 効果検証シート

資料1

基本目標 (Plan)	4 「そこ！が好き」はつかいち ～はつかいちの心を育む～						
KGI	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
まちに愛着があると答える市民の割合	78.4%	78.6%	77.3%	76.8%	76.7%	80.0%	△

【KGI・KPIの進捗状況凡例】
◎:目標値達成
○:現状値(R1)から改善
△:現状値(R1)と同数又は後退
【施策の評価凡例】
KPIの平均点が
4点以上:達成 2点以上4点未満:やや達成 2点未満:要改善
(KPIの進捗状況 ◎:5点 ○:3点 △:1点)

施策体系		施策達成度							
施策1	はつかいち大好きっ子！を育てる	達成 (4点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	自分の住んでいる地域のことが好きな児童・生徒の割合	(小学校)92.7% (中学校)82.1%	(小学校)90.9% (中学校)78.2%	(小学校)93.8% (中学校)86.4%	(小学校)92.6% (中学校)84.9%	(小学校)94.2% (中学校)85.6%	(小学校)93.0% (中学校)86.0%	(小学校)◎ (中学校)○	
施策2	安心して暮らせるまちをつくる	やや達成 (2.3点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	①災害による死者数	0人	0人	1人	0人 (R1からの累積値1人)	0人	0人	◎	
	②市内の犯罪認知件数(廿日市署管内)	377件	329件	303件	387件	407件	320件以下	△	
	③適切に医療機関を利用できると思う市民の割合	41.2%	34.8%	35.4%	34.5%	33.8%	44.0%	△	
施策3	住み続けたい！をかなえる	やや達成 (2.4点)	現状値(R1)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	目標値(R7)	進捗状況
KPI	①都市拠点(市役所周辺)で必要な誘導施設の充足率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎
	②支所周辺が地域の中心地としてふさわしいと思う市民の割合	77.7%	66.4%	70.4%	67.6%	66.6%	80.0%	△	
	③公共交通で安全、快適、円滑に目的地まで移動できると思う市民の割合	71.9%	69.3%	70.1%	67.9%	66.3%	75.0%	△	
	④地域課題を地域主体で課題解決に向けて取組をしていると思う市民の割合	15.8%	15.1%	14.3%	15.8%	14.1%	32.1%	△	
	⑤福祉・介護に関するサービスが適正に提供されていると思う市民の割合	36.9% (R2年度)	37.0%	36.3%	36.8%	34.9%	50.0%	△	
	⑥市民センターが利用しやすいと思う市民の割合	44.2%	44.1%	46.2%	49.7%	48.6%	50.0%	○	
	⑦日頃から文化芸術活動(音楽、演劇、舞蹈、美術、伝統芸能、文学など)に親しむ人の割合	42.1%	49.4%	50.5%	52.3%	50.7%	48.0%	◎	
総合分析 (Check)	<p>KGIは現状値から1.7ポイント低下し、令和3年度から低下傾向にあり、進捗状況は後退△となっている。</p> <p>施策1:1年間を見通して計画的に支援を行い、地域人材を活用しながら学習を進めることや、課題解決に向けて児童生徒が主体的に活動する取組ができたことなどから、小・中学校ともに令和5年度からは上昇、小学校については目標値を達成し、中学校は目標値まであとわずかとなっている。</p> <p>施策2:「①災害による死者数」以外のKPIについては、現状値(R1)から後退となっている。</p> <p>「②市内の犯罪認知件数(廿日市署管内)」について、全国的に強盗事件が相次いでいることや、本市における不審者の目撃情報が報道されたことなどから、身近に犯罪に遭う不安を感じている市民の割合が大きく増加していると推測される。犯罪認知件数の増加率は、前年と比べ純化しているものの、実績値は増加しており、市の支援を望む声があることから、引き続き支援の必要がある。</p> <p>「③適切に医療機関を利用できると思う市民の割合」については、適切に医療機関を利用できると「思わない」「どちらかというと思わない」の最も多い理由は、「医療機関・医師が少ない、専門医がいない、医療設備が不十分」となっているが、その理由については傾向が毎年異なり、「適切な利用」の感じ方に個人差があるため、要因の特定が難しいと考えている。</p> <p>施策3:KPI全体で「やや達成」ではあるが、半分以上のKPIで進捗状況が「△:現状値(R1)と同数又は後退」となっている。</p> <p>「②支所周辺が地域の中心地としてふさわしいと思う市民の割合」では、令和6年度は直接的にKPIに寄与する事業が行われていない。</p> <p>「③公共交通で安全、快適、円滑に目的地まで移動できると思う市民の割合」については、廿日市市地域公共交通計画に基づき、誰もが利用しやすい地域公共交通をめざし、効果的な地域公共交通ネットワークの構築を図っているところだが、進捗状況は現状値から5.6ポイント減少しており、継続した取組が必要となる。</p> <p>「④地域課題を地域主体で課題解決に向けて取組をしていると思う市民の割合」について、地域自治組織の支え手確保のニーズや方策について、地域自治組織及び企業へのヒアリングによる調査・分析や地域の実情に応じた、地域自治組織の体制や事業の見直し、合意形成の進め方などについて相談支援等の取組を行っているが、地域自治組織の活動が、地区住民に十分周知できておらず、地域の取組に、関心がない人の割合が増えていると考えられ、それぞれの地域課題を知ることなどに対する支援が必要だと考える。</p> <p>「⑤福祉・介護に関するサービスが適正に提供されていると思う市民の割合」では、過疎地域等の高齢者福祉・介護サービスに限定した取組を実施し、過疎地域(吉和・宮島地域)における高齢者福祉サービス・介護サービスの確保施策として一定程度の成果は図られていると考えられるが、実績値は低下しており、これまでの取組の更なる推進が必要となる。</p> <p>「⑦日頃から文化芸術活動(音楽、演劇、舞蹈、美術、伝統芸能、文学など)に親しむ人の割合」については、令和6年3月に新たに追加された指標である。</p>								
今後の対応 (Action)	<p>施策1:関係課が連携を図りながら、地域を素材とした学習を通じて、地域への愛着やシビックプライドの醸成を図るとともに、より効果的な探究活動を進めるための支援(出前授業)を行うなどの取組によって更なる数値の向上を図り、中学校についても目標値の達成を目指す。</p> <p>施策2:犯罪による被害の未然防止として、犯罪発生を抑止するため、地域や警察、関係団体と連携し、市民の主体的な防犯活動を支援する等の取組を実施する。</p> <p>更に、市民の犯罪に対する不安が拡がる中、犯罪の未然防止を図り、安心して暮らすことができるよう、国の交付金を活用し、住宅に設置する防犯カメラや録画機能付インターホンなどの防犯設備の設置補助を引き続き実施する。</p> <p>「適切に医療機関を利用できると思う市民の割合」については、要因の特定が難しいところであるが、JA広島総合病院が開催する廿日市休日夜間急患センター運営協議会に参画するなど、引き続き、関連団体との連携などにより救急医療の充実に資する取組や、吉和診療所の運営の維持に努める等の取組を推進していく。</p> <p>施策3:「②支所周辺が地域の中心地としてふさわしいと思う市民の割合」では、支所周辺に誘導すべき施設は既に充足(100%)しており、今後は関係課や関係機関と連携したソフト施策展開を検討していく、市民の実感につなげていく。</p> <p>「③公共交通で安全、快適、円滑に目的地まで移動できると思う市民の割合」では、多様な主体との協働により、新たな価値を創造しながら、身近な移動手段となる地域公共交通ネットワークを引き続き構築し、人々の暮らしを支えることを施策方針とし、乗降データの取得・分析による今後のバスルートダイヤ再編の適正化を図る事業等を進めていく。</p> <p>「④地域課題を地域主体で課題解決に向けて取組をしていると思う市民の割合」への今後の対応として、補助制度を見直し、地域内の合意形成、課題の見つけ方などについて有識者等から助言を得ることができるように、相談会(アドバイザー活用)を取り入れるなど、伴走支援を強化することに取り組んでいく。</p> <p>「⑤福祉・介護に関するサービスが適正に提供されていると思う市民の割合」では、福祉サービス・介護サービスの基盤の確保として、包括ケアシステムの深化・推進、介護予防・健康づくりの推進、介護人材の確保・育成・定着に向けた取組の推進などを行っていく。</p>								

推進会議の意見

- 「公共交通で安全、快適、円滑に目的地まで移動できると思う市民の割合」や「福祉・介護に関するサービスが適正に提供されていると思う市民の割合」の進捗状況が△となっているが、特に、内陸部にお住まいの一人暮らしの高齢者の方が困っているのだと思う。現在開発中の観光交流エリアにデイケアサービスのような施設を設け、交通を整備することで、医療を受けたり、いろいろな相談が出来る重層的な支援の拠点として欲しい。広島市では交通網が確保されたデイサービスがあり、中国人と日本人が一緒に生活しているような施設がある。
- ・内陸部では外国人労働者が多く働いている。その方が送迎ドライバーとしても働けるように考えても良い。
- ・「地域課題を地域主体で課題解決に向けて取組をしていると思う市民の割合」の数値が低くなっているが、地域課題を解決するには誰なのか。地域で課題解決に向けて取り組んでいる市民はたくさんいると思う。子ども食堂など、地域の方がすごく頑張っているが、そのことを知らない人が多いのではないか。このような活動に対する情報を発信していくことで、KPIの数値もあがるのではないか。
- ・「地域課題を地域主体で課題解決に向けて取組をしていると思う市民の割合」の今後の取組について、行政側からのサポートについて書かれているが、国においてはビジネスを使った地域課題解決についても発信しているので、そういう観点での取組も視野に入れることが必要ではないか。
- ・基本目標4に対してこそ、デジタルの力を活用することを考えなければ数値の改善はできないのではないかと思う。ぜひ今後検討してほしい。
- ・「自分の住んでいる地域のことが好きな児童・生徒の割合」と基本目標3にあるKPI「自分の良さは周りから認められていると回答した児童・生徒の割合」の数値が増え続けていることが、非常に良いと思った。